

善照寺  
寺報  
**ぜんしゅうじ**  
善照寺  
〒272-0131 市川市湊十八番二十号 善照寺  
電話 四七(三五七)二二三二  
FAX 〇四七(三九七)二二三二

天下和順 日月清明 風雨以時 災厲不起  
國豊民安 兵戈無用 崇徳興仁 務修禮讓

善照寺住職 今岡達雄

皆様、明けましておめでとございます

私の個人的年賀状では經典から言葉を選んで年頭の言葉にしています。昨年は新たな戦争が勃発したので「兵戈無用」を選びました。昨年は地震や台風などの自然災害が多かったので、今年は「災厲不起」にしようかと思つたのですが「風雨以時」を選びました。

無量寿経という經典には阿弥陀仏が仏になられたこと、私たちをお救いくださることが書かれています。その無量寿経の後

段には表題にした「天下和順・・・」と書かれています。

特にこの部分を「祝聖文」と呼んでお目出たい法要のときのご回向に使っています。現代語に訳しますと次のような意味になります。「仏の教化をうけた国や村は平和になって、日も月も清く輝き、風雨も時になつて程よく、災害や疫病はおこらず、国は富み、民は豊かになつて、兵や兵器を用いることなく、人びとは徳をあげ仁を尊んで、礼節や謙讓の道を守るようになるのである。」

風雨以時とは「風や雨が時になつて程よく」、つまり必要なときに必要なだけ雨が降り風が吹くと言うことです。雨や風は私達の生活に不可欠なものです。私達人間のものさしでみると必要以上に雨が降り風が吹くことがあります。「災害や疫病がおきませんように」というのが私達の願いですが、しばしば、自然はそういうには振る舞つてくれないのです。現代人は人間の力を過信しているように思えます。つまり人間の力で自然をコントロール出来ると考えているのではないのでしょうか。しかし自然の力は強大です。私達がコツコツと築いてきた平穏な生活をアツと言つ間に奪つてしまいます。

「仏の教化をうけた国や村は風雨も時になつて程よく、災害や疫病はおこらない」と經典に書かれています。今年こそ仏の教えに従つて毎日を暮らしていきたいと思ひます。

合掌

年間行事予定

平成十七年の行事の予定は次の通りです。是非ともお参り下さい。  
初念仏会 一月十七日(月)  
お彼岸春 三月十七、廿三日  
お盆東京 七月十三、十五日  
地元 八月十三、十五日  
施餓鬼会 八月十七日(水)  
お彼岸秋 九月二十、廿六日  
お十夜会 十一月十七日(木)

平成十七年年回表

一	周忌	平成十六年
三	回忌	平成十五年
七	回忌	平成十一年
十三	回忌	平成五年
十七	回忌	平成元年
二十三	回忌	昭和五十八年
二十七	回忌	昭和五十四年
三十三	回忌	昭和四十八年
三十七	回忌	昭和四十四年
四十三	回忌	昭和三十八年
四十七	回忌	昭和三十四年
五十	回忌	昭和三十一年

## 住職法話

お念仏のご利益

さて、今回はお念仏の現世におけるご利益についてお話ししましょう。阿弥陀仏の本願を信じ、極楽往生を願ってお念仏する人は、息を引き取るとき阿弥陀仏がお迎えに来られ、極楽浄土にお導き下さるこれがお念仏の信仰です。つまり来世での極楽生活を得ることが出来るのですが、現世ではどうなのかと疑問に思った方がいらつしやうて、法然上人にお尋ねになりました。「お念仏によって阿弥陀さまの光明に救われるのは生きて生活しているときでしょうか、それとも臨終の時でしょうか?」阿弥陀さまにお念仏することによって、現世ではどのような利益が有るのですか?」

救われるのは平生が臨終か  
この問いに法然上人は次のよ

うにお答えになりました。

「平生の時からです。それは往生を願う心に偽りがなく、こんな我が身ですら往生が叶うということを疑わずに阿弥陀さまの来迎を待ち望んでいる人は必ず極楽に往生できるのです。阿弥陀さまは限りない光明を、そのような人に日常から照らし始めて、最後臨終にいたる時まで照らし続け、決してお見捨てにはなりません」。

私達は真つ暗闇の中では生活することが出来ません。でも太陽や電灯のおかげで昼も夜も、雨の日も風の日にも明るい生活を営むことが出来ます。その明るい生活の中にあっても、心の中は解決の糸口も見えないほど真つ暗闇の中で暮らしているのではないのでしょうか。その真つ暗闇の中で訳もわからず苦しんでいる私達に明るい希望の光を差し延べてくれるのです。それが阿弥陀仏の救いの力です。つまりお念仏をはじめ

と、はじめたときから亡くなるまでずつと明るく暖かな光に つまれます。その感覚が生きるための大きなパワーとなるのです。これが救いの力です。

念仏に現世利益はありますか

この問いに法然上人は次のようにお答えになりました。

「阿弥陀仏の本願を信じ、極楽往生を願ってお念仏する人に對しては、阿弥陀如来、薬師如来や観音菩薩、地藏菩薩など諸々の仏様や菩薩様、不動明王、金比羅様、弁天、帝釈天などの諸神諸天が昼夜を問わず守り続けてくれ、いつでも影のごとくに寄り添って悪鬼悪神の手を払いのけてくれます。ですから現世において心は安穩であり、後生には極楽に往生できるのです」。

お念仏をする者には、阿弥陀仏をはじめとして多くの仏様や菩薩様、諸神諸天が四六時中いつでも私達の頭上を巡ってお

り、悪いことが降りかからないように守ってくれます。そのおかげで現世については安らかな穏やかな生活をおくる事が出来ます。これがお念仏の現世における利益です。

利益をあてにしない念仏

肝心なことは阿弥陀仏の本願を信じ、往生を願う心に偽りがなく、こんな我が身ですら往生が叶うということを疑わずに、阿弥陀さまの来迎を信じお念仏することです。このような念仏をしている人は常日頃から阿弥陀さまの救いの力が働き、かつ、悪いことが起こらないように諸々の仏様や菩薩様が守ってくれます。このような利益を当てにして念仏するのではなく、只々、阿弥陀仏の本願を信じ、極楽往生を願ってお念仏するのです。そうすれば求めてもいないのに自然に利益が得られる(不求自得)、これが念仏のご利益なのです。

(住職)



信心をおこすには

法然上人のおことば

「教えを受けることと、信心をおこすことは、別ものである」  
(『法然上人行状絵図』巻十九)

法然上人ご在世の時代。ある年老いた僧が人里をさけ、ひっそりと修行生活を送っていました。それが、これという成果を得ることもできずにおりました。

そんなとき、今うわさの法然上人の書かれたというご書物を、見せてもらう機会がありました。そこには次のように書かれておりました。

「自分の名を呼んで救いを求める人があれば、私はそのような人々を残さず救いとる 阿彌陀仏はその誓いを実現し、その力は今もはたらいっています。近頃は、自力の修行をする人も、さとの境地に達する人もいなくなりしました。しかし阿彌陀仏を信じて、念仏してその名を呼

べば、どんなおろかな人までも救われるのです」

かの山僧は、これを読んでハツとしました。自分が修行にあけていたあいだも、阿彌陀仏はこの自分をずっと待っていた。自分は法然上人の説くお念仏によつて、この阿彌陀仏に助けをもらうよりほかない。

そう信じた山僧は、法然上人のご書物をすみからすみまで読みわたし、阿彌陀仏のこと、念仏のこと、すべて学びつくしたのでした。

ところが書物をどんなに学んでも、ひとつの疑問がつきまといます。自分のような小さくつまらない人間が、阿彌陀仏の救いの手にかかることなど、とても信じられないのです。

思いなやんでいた山僧はついに、うわさの法然上人のところ

## 仏さまからの手紙

へ足を運んで、そのなやみを伝えることにしました。

法然上人はうなずきながら聞き、こう教えました。「阿彌陀仏への信心がおこるようになり、  
仏・法・僧にお願ひなさい」

そこで山僧はその教えを守り、毎日のおつとめで信心がこるようお祈りしたほか、仏像の前に出れば信心がおこるよう、経典を開くたびに信心がおこるよう、僧を見かければ信心がおこるよう、祈ったのでした。

ある日かれは、大仏で有名な奈良の東大寺におまいりしました。折しも、戦乱によつて焼かれた大仏殿の、復興工事のさなかでありました。信心がおこるようにと、建造中の大仏様にお祈りし終えて、立ち去ろうとした時です。大仏殿のはりに使う巨木が、棟梁の指揮によつてゆっくりと引き上げられていくのが目に入ったのです。その材

木は、予定されていた所へみるみるおさまっていきました。

地べたに転がっているのがふさわしいその巨大な木材が、棟梁の計画のままに大仏殿の天井まで運ばれるのを見たとき、山僧は不思議と幸せな感覚に包まれておりました。腑に落ちたのです。阿彌陀仏の救いも、まさにこのようなものであると。棟梁の腕さえこのように素晴らしい、阿彌陀仏の救いの腕はもつと確かであろうと。

熱心な祈りが実つて、教えを学びつくしてもおきてこなかった信心が、ひよんなことからおこつたのでした。その数年のち、かの老山僧は種々のしるしを現して往生をとげたということです。  
(副住職)





## お寺との付き合い

善照寺の一年は新年の挨拶に始まり除夜の鐘で終わります。ちよつと前まではご近所の皆様には新年のご挨拶にお伺いしていたのですが、挨拶の途上で心筋梗塞に倒れてから寺報で挨拶をすることにさせていただきました。ですから善照寺の一年は初念仏会から始まります。

## 初念仏会

初念仏会は、文字通り新年になつて初めて皆さんと一緒に初念仏をするための法要です。

浄土宗の一月の法要には修正会と御忌会があります。修正会は年の初めに行う法要で、天皇陛下と国家隆盛、万民豊樂を祈願するための法要とされています。善照寺では除夜の鐘に引き続いて本堂にて行います。

浄土宗をお開きになつた法然上人は一月廿五日にお亡くなり

になりましたので、その命日にいうのが御忌会です。善照寺の縁日(善照寺でいろいろな法要を行う日)は十七日ですから、法然上人の命日にも近いので一月十七日に法然上人の年忌法要として初念仏会をつとめているのです。

つまり善照寺の初念仏会は、法然上人の年忌法要をつとめるために、皆さんがお集まりになつて初念仏をするのです。

## ご開帳

善照寺には法然上人鑑御影というお像があります。いつもは厨子に入つて本堂の左側に安置されています。このお像は法然上人が、ご自身の姿を鏡に映して造られたので鑑御影と呼ばれています。

善照寺は湊村在住の武士であつた青山正貞の寄進によつて覺譽潮隨和尚が寛永二年(一六二五)に建立されたと伝えられています。その潮隨和尚が法

然上人自作の座像(鏡御影像)を武州小松村から背負つて来られたとされています。

法然上人に縁の深いお像があるのですから、御忌会には厨子の扉を開け(ご開帳と言います)、法然上人鑑御影をご本尊阿弥陀仏のもとに安置し法要を行うことにしています。是非ともご参拝して下さい。

## お塔婆の申込みとお布施

お塔婆の申込みは遅くとも一月十日までにお願ひします。また、遠方の方には「出欠のはがき」を同封してあります。このはがきで出欠・塔婆等についてお知らせ下さい。近隣の方々は「出欠はがき」は入れてありません。塔婆のお申込みはお電話で結構です。

お塔婆は一基四千円です。これとは別にお御忌法要のためのお布施(ご回向料)を包んで下さい。金額はお気持ち次第ですが平均五千円程度です(住職)

## 編集後記

昨年を振り返るとやはり、福井県・新潟県の豪雨水害、そして地震による災害と、自然による被害がとても多く、胸が痛むのと同時に、自然の脅威を大変感じました。去る十二月二十三日は、千葉教区浄土宗青年会が、千葉駅前で托鉢・念仏行脚による街頭募金を実施しました。同会は、千葉県内の浄土宗青年僧侶の会で、相互研鑽と社会教化のために活動している団体です。当日は寒空の下、青年僧侶の南無阿弥陀仏というお念仏が響き、師走でにぎわう街を足早に行きかう人々の足を止めていました。集まつた浄財は災害復興などのため被災地にお送りします。さて、今年も皆様にとつてよいお年でありますように。本年もよろしくお願ひいたします。

(副住職室 久美英)

全国浄土宗青年会災害救援基金  
郵便振替口座0840-9-45409

<http://zj.jodo.or.jp/>